

Immediate Press Release 2014.5.30

絵画の在りか The Way of Painting

謹啓 深緑の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対して格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、当館では、2014年7月12日より「絵画の在りか」展を開催いたします。

20世紀の絵画は、具象から抽象へ、抽象から具象へと大きな転換をみせました。手法や素材が無限に拡大していく現代美術の領域において、絵画はつねに、尽きることのない表現の可能性を秘めたジャンルであり続けてきたともいえるでしょう。世界の中でもとくに日本では、各地でさまざまなコンクールや公募展が開催され、毎年のように才能あふれる数多くの若手ペインターが輩出しています。

一種の“絵画ブーム”ともいえるこの状況の背後には、大きな危うさも潜んでいます。アニメやマンガなどのサブカルチャー表現、あるいは、氾濫する映像やインターネット上のイメージへの無批判で無自覚な接近は、表現の本質とは全く無関係に展開されているきらいもあります。もちろん、その一方で、絵画という“古くて新しい”ジャンルに真摯に向き合いながら、独自の表現を模索するペインターも少なくありません。

また、意外に聞こえるかも知れませんが、現代絵画をテーマにした展覧会が開催される機会は決して多くありません。過去10年間に美術館で企画された本格的な現代絵画展と呼べるものは、2007年の「森」としての絵画：「絵」のなかで考える（岡崎市美術博物館）、2010年の「絵画の庭：ゼロ年代日本の地平から」（国立国際美術館）、2012年の「現代絵画のいま：キュレーターからのメッセージ2012」（兵庫県立美術館）など数えるほどです。

本展は、2000年以降に活躍する24名の近作、新作合わせて約120点という本格的な規模で、現代絵画の最新の動向を紹介するとともに、今日において絵画表現がもつ意味や本質を探るものです。

つきましては、この「絵画の在りか」展を貴誌上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

【開催概要】

展覧会名 絵画の在りか The Way of Painting
 会期 2014年7月12日[土] - 9月21日[日]
 会場 東京オペラシティ アートギャラリー
 開館時間 11:00-19:00 (金・土は20:00まで/最終入場は閉館の30分前まで)
 休館日 月曜日(祝日の場合、翌火曜日)、8月3日[日](全館休館日)
 入場料 一般1,000(800)円/大・高生800(600)円/中・小生以下無料

- * 同時開催「収蔵品展048 みずのすがた わが山河 Part V」、「project N 57 塩川彩生」の入場料を含みます。
- * 収蔵品展(特別展示) 入場券200円(各種割引無し)もあり。
- * ()内は15名以上の団体料金。その他、閉館の1時間前より半額、65歳以上半額。
- * 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

ウェブサイト <http://www.operacity.jp/ag/>  <https://www.facebook.com/tocag>

主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

協賛 ジャパンリアルエステイト投資法人 / NTT 都市開発株式会社

■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】堀 【広報担当】吉田

Tel 03-5353-0756 / Fax 03-5353-0776 / Email ag-press@toccf.com



ARTGALLERY
TOKYO OPERA CITY

●絵画の在りかを探す24人のペインターたち

21世紀になってアートはとて身近なものになりました。とくに絵画は、「前衛」と呼ばれたような20世紀の難解なものから、誰にも親しみやすいようなものへと大きく変質したといえるでしょう。とはいえ、キャンバスに絵具で何かを描けば、それが即「絵画」であり、「アート」になるのでしょうか？キャンバスを切り裂く、モノクロームで描く、絵具をたらず、マンガなどのイメージを使うなど、20世紀に行われたさまざまな実験的試みによって、絵画は表現として果てしなく拡大してしまいました。まるで絵画と見紛うかのようなイメージがいたる所に氾濫する現代社会では、逆に、「絵画」でないものを見つけることが困難といえるかも知れません。それぞれの方法論や絵画観はさまざまですが、今回取り上げる24人は、そうした困難な時代に「絵画」の在りかを真剣に探し求めるペインターたちといえるでしょう。

●出品作家紹介（姓のアルファベット順）

◎青木豊 AOKI Yutaka 1985年熊本県生まれ／2010年東京造形大学大学院修了

平面（二次元）と立体（三次元）を自由に行き来しながら、ヴァーチャルな情報が氾濫する現代社会に絵画の回復を追求します。絵画の物質性に注目して、世界を認識する糸口を模索しています。

◎厚地朋子 ATSUCHI Tomoko 1984年京都府生まれ／2010年京都市立芸術大学大学院修了

歪んだ遠近法のなかに工事のフェンスが大きく描かれた田園風景、舞台の書割を思わせる室内風景などに、西洋文化に対する日本人の憧憬とコンプレックスをユーモラスに表現しています。

◎千葉正也 CHIBA Masaya 1980年神奈川県生まれ／2005年多摩美術大学卒業

混沌とした設定の近景にさまざまなモノや生き物が登場し、異質な空間の共存が奇妙な違和感を生み出しています。体感的な側面を重視して、新しい絵画の可能性を開拓しようとしています。

◎榎本耕一 ENOMOTO Koichi 1977年大阪府生まれ／2003年金沢美術工芸大学卒業

無数のイメージが埋め尽くす画面は、この世界を「イメージの漂流する空間」と捉えた結果です。自ら考案したキャラクターが加わり、グローバルズムとローカルズムが同居します。

◎福永大介 FUKUNAGA Daisuke 1981年東京都生まれ／2004年多摩美術大学卒業

使い古されたモップ、打ち捨てられたタイヤなど、不穏な不気味さや虚無的な終末感がにじむ情景のなかに、強固な人間性や存在の本質を探っています。

◎風能奈々 FUNO Nana 1983年静岡県生まれ／2008年京都市立芸術大学大学院修了

染料、アクリル絵具、油彩など多彩な素材をもちいたマチエールやテクスチャーが特徴です。動植物などの文様風のモチーフが緻密かつ緻密に、画面全体に密度をもって描かれます。

◎今井俊介 IMAI Shunsuke 1978年福井県生まれ／2004年武蔵野美術大学大学院修了

絵画の基本的要素である色彩、形態、面を探求する制作を行っています。錯視を生むという点でオプティカル・アートに似ていますが、描かれたものの意味や内容を強く想起させます。

◎岩永忠すけ IWANAGA Tadasuke 1979年佐賀県生まれ／2008年東京藝術大学大学院博士後期課程修了

色彩によってのみ感受される微細な情報が、私たちの感覚の開放に少なからぬ影響を与えていると考えています。透明感のある色彩の集積のうちに、作家の生の軌跡が浮かび上がっています。

◎鹿野震一郎 KANO Shinichiro 1982年東京都生まれ／2007年名古屋造形芸術大学卒業

イメージの喚起力やイリュージョンを積極的に活用して、絵画とそれに向き合う鑑賞者の関係性への言及する作品です。インスタレーションには旧作と新作が含まれています。

◎小西紀行 KONISHI Toshiyuki 1980年広島県生まれ／2007年武蔵野美術大学大学院修了

すべて自分の家族の写真をもとに、一筆書きを思わせる大胆で、即興性の強いストロークで描いた人物画です。普遍的な人間関係や、時間、場所、記憶などが表現されています。

◎工藤麻紀子 KUDO Makiko 1978年青森県生まれ／2002年女子美術大学卒業

女の子、小動物、草花など、一見少女性が強く感じられる心象風景ですが、堅実で卓越した描写力と表現力を示しています。牧歌的な情景に現代日本の親密な感性が豊かに表現されています。

◎政田武史 MASADA Takeshi 1977年大阪府生まれ／2003年京都市立芸術大学大学院修了

ハリウッド映画やテレビ番組のワンシーンなど、既成のイメージを巧みに利用して、既視感を刺激しつつ、その意識や記憶に働きかけます。パッチワークのように連続するタッチが特徴です。

◎松原壮志朗 MATSUBARA Soshiro 1980年北海道生まれ／2005年多摩美術大学卒業

プリントのように彩色を施したバッグも絵画表現と見做した作品です。絵画的なイメージが氾濫する時代を肯定的に捉えて、柔軟な感性によって絵画の始原のありようを探り当てようとしています。

◎南川史門 MINAMIKAWA Shimon 1972年東京都生まれ／1998年Bゼミスクーリングシステム修了

ストライプ、ドット（水玉）、カラーフィールド、パターンなど、地や背景がきわめて重要な構成要素となっています。都市カルチャーと絵画表現の関係への着目が示されています。

◎持塚三樹 MOCHIZUKA Miki 1984年静岡県生まれ／1999年常葉学園短期大学卒業

もともと実在するものを描くのではなく、みたことがないイメージや記憶を頼りに、脳裏に浮かぶ心象風景をつむぐかのような制作方法だった。そこから、かたちのない光を絵画を通して形象化する試みに挑戦し、やがて、具体的な形態や比喩表現などをもちいることなく、抽象的な筆遣いのみを集積からイメージを生成させることに成功している。

◎中園孔二 NAKAZONO Koji 1989年神奈川県生まれ／2012年東京藝術大学卒業

確かなテクニックに裏打ちされ、絵画表現に対する全幅の信頼と愛着を臆することなくみせながら、「自分の見てみたかった景色」を果敢にキャンパスに描き出しています。

◎大野智史 OHNO Satoshi 1980年岐阜県生まれ／2004年東京造形大学卒業

シンボルをもちいて、自然と人工の対峙と融合、時間などを探求します。プリズムを描く作品は、まばゆい光を放つ軽薄で虚栄にみちた現代社会の象徴で、人工の美の極限を表現しています。

◎小左誠一郎 OSA Seiichiro 1985年静岡県生まれ／2011年東京藝術大学大学院修了

薄く溶いた絵具を塗った画面に、五芒星を描いています。縦、横、斜めの3つの基本線と背景色のみによる抽象作品ですが、絵具の塗りムラやかすれにより、ぬくもりや情感が感じられます。

◎五月女哲平 SOUTOME Teppei 1980年栃木県生まれ／2004年東京造形大学卒業

薄く溶いた絵具を何層も塗り重ねる作業を反復して制作します。輪郭線を使わず、自由な配色による色面のみで描き、色彩と形態、イメージと知覚、絵画と身体感覚などがテーマになっています。

◎高木大地 TAKAGI Daichi 1982年岐阜県生まれ／2010年多摩美術大学大学院修了

黒の背景に陰影やハイライトを施されたポットやピンなどを描く静物画、矩形や不定形の枠を描く作品など、形態表現を切り口に、地と形象、絵画の枠組みや空間に対する探求を行っています。

◎高橋大輔 TAKAHASHI Daisuke 1980年埼玉県生まれ／2005年東京造形大学卒業

絵画がイメージである以前に、物質であるということに気づかせてくれます。外見とはうらはらに、洋の東西の絵画作品が参照され、絵画もしくは絵具そのものがモチーフになっています。

◎竹崎和征 TAKEZAKI Kazuyuki 1976年高知県生まれ／1999年高知大学卒業

「風景の記憶」をテーマに現代の風景画の可能性を追求しています。描くことのみで成立しない点も特徴で、コラージュとインスタレーションをもちいて、移動や時間の概念が表現されています。

◎八重樫ゆい YATEGASHI Yui 1985年千葉県生まれ／2011年東京造形大学大学院修了

布生地柄やパターンなど、絵画以外の抽象的なヴィジュアル・イメージを、絵画に置き換えています。制作は日課のようにたんと進められ、そのこだわりから崇高性すら感じられます。

◎横野明日香 YOKONO Asuka 1987年愛知県生まれ／2013年愛知県立芸術大学大学院修了

限られた色彩とストロークで山とダムを描いています。縦長や横長の大画面に展開されたストロークは、身体性を強く感じさせ、絵肌と山肌が同化した不思議な世界を表現します。

●アーティストトーク

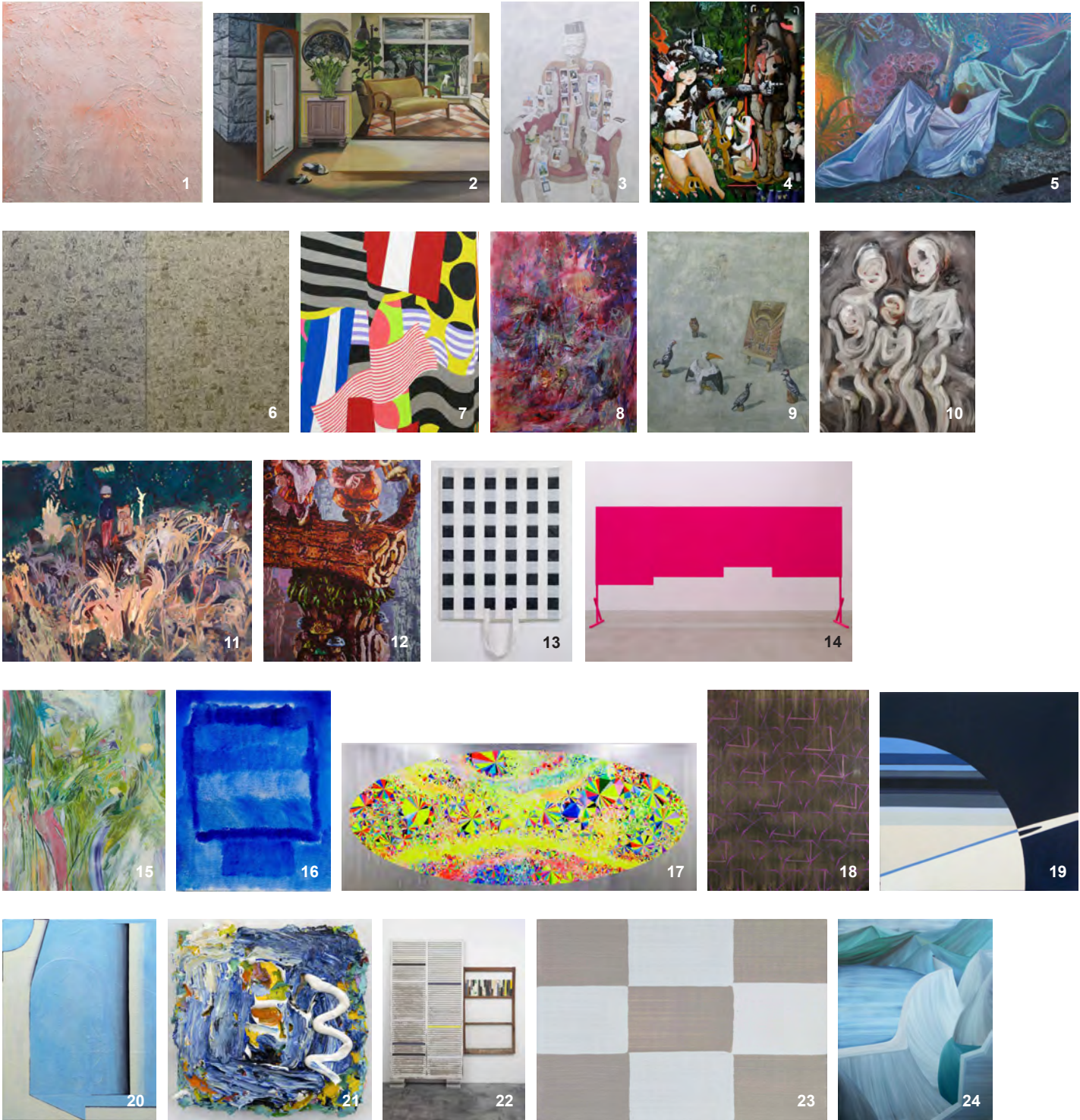
- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 第1回 7月12日 [土] | 出演: 厚地朋子 / 榎本耕一 / 小西紀行 |
| 第2回 7月13日 [日] | 出演: 岩永忠すけ / 政田武史 / 竹崎和征 / 松原壮志朗 |
| 第3回 7月19日 [土] | 出演: 青木豊 / 今井俊介 / 横野明日香 |
| 第4回 7月20日 [日] | 出演: 持塚三樹 / 五月女哲平 / 八重樫ゆい |
| 第5回 7月21日 [月・祝] | 出演: 福永大介 / 工藤麻紀子 / 高木大地 |
| 第6回 7月26日 [土] | 出演: 千葉正也 / 鹿野震一郎 / 大野智史 |

会場: 東京オペラシティ アートギャラリー

時間: 各日14:00-

参加方法: 予約不要、ただし当日の入場券が必要です。

※参加状況により入場制限を行う場合がございますので、ご了承下さい。



- 1 青木豊《untitled》 アクリル絵具、スプレー、キャンバス、パネル 162.0×162.0cm 2013年 作家蔵
- 2 厚地朋子《コメディーン》 油彩、キャンバス 210.0×270.0cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of taimat
- 3 千葉正也《犬のように歩き回った偉大な男》 油彩、キャンバス 145.0×100.0cm 2009年 白木聡氏・鎌田道世氏蔵 ◦ the artist Courtesy of ShugoArts
- 4 榎本耕一《回転式刑台「リジョイスの争鳴」》 油彩、キャンバス 227.3×181.8cm 2011年 Collection of Masamichi Katayama / Wonderwall* ◦ the artist Courtesy of TARO NASU
- 5 福永大介《car shop》 油彩、キャンバス 194.0×259.5cm 2012年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 6 風能奈々《片目は鳥の目 片目は虫の眼》 アクリル絵具、キャンバス 227.5×324.0cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 7 今井俊介《untitled》 アクリル絵具、キャンバス 51.5×45.0cm 2013年 白木聡氏・鎌田道世氏蔵 ◦ the artist Courtesy of HAGIWARA PROJECTS
- 8 岩永忠すけ《羽毛》 油彩、キャンバス 99.8×72.6×3.0cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of ShugoArts
- 9 鹿野震一郎《鑑賞》 油彩、キャンバス 91.0×72.7cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of ShugoArts
- 10 小西紀子《untitled》 油彩、キャンバス 145.5×112.0cm 2012年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of ARATANIURANO
- 11 工藤麻紀子《いぬとねこ》 油彩、キャンバス 130.0×162.0cm 2011年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 12 政田武史《HAITOKUKANのマーチ・覗き見OK、カモン》 油彩、キャンバス 117.0×91.0cm 2012年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of Wako Works of Art
- 13 松原壮志朗《untitled (grid tote bag)》 アクリル絵具、キャンバス地 80.0×60.0cm 2013年 作家蔵 【参考図版】*実際の出品作品とは異なります。
- 14 南川史門《4つの絵画と自立するための脚》 水性塗料、ボード 197.0×463.7cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of MISAKO & ROSEN
- 15 持塚三樹《light sleep》 油彩、キャンバス 100.0×80.5cm 2012年 ヴァンジ彫刻庭園美術館蔵 ◦ the artist Courtesy of MISAKO & ROSEN
- 16 中園孔二《無題》 油彩、キャンバス 53.0×41.0cm 2014年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 17 大野智史《PRISM Bye Bye Sunset》 油彩、アクリル絵具、キャンバス、パネル 300.5×728.5cm 2013年 高橋コレクション蔵 ◦ the artist Courtesy of Tomio Koyama Gallery
- 18 小左誠一郎《無題》 油彩、キャンバス 227.3×181.8cm 2014年 作家蔵
- 19 五月女哲平《Saturn》 アクリル絵具、キャンバス 116.5×116.5cm 2011年 個人蔵 ◦ the artist Courtesy of Aoyama Meguro
- 20 高木大地《window》 油彩、キャンバス 65.1×53.0cm 2013年 作家蔵
- 21 高橋大輔《無題(マドンナ)》 油彩、ボード 25.0×26.0cm 2012-13年 ニガウリ・コレクション蔵 ◦ the artist Courtesy of HARMAS GALLERY
- 22 竹崎和征《67 V》 ペンキを塗った古い雨戸、アクリル絵具、古い窓枠、キャンバス、油彩 199.0×170.5cm 2013年 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of MISAKO & ROSEN
- 23 八重樫ゆい《untitled》 油彩、キャンバス 作家蔵 ◦ the artist Courtesy of MISAKO & ROSEN
- 24 横野明日香《ダム》 油彩、キャンバス 259.0×194.0cm 2010年 作家蔵